

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600640		
法人名	(有)アメンティホーム		
事業所名	アメンティホーム塩釜 2F		
所在地	愛知県名古屋市中白区元八事3丁目321番地		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2371600640-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様がご自身のペースで自由な思考で生活出来るように支援している
また、集団生活としての取り組み集団体操や家事の分担などにも力を入れている
医療機関とは常に連携を取り緊急時すぐ対応できるように安心して生活出来るようにしている
地域との交流の機会を多く作り馴染みの関係作りに励んでいる
家族様が気軽に意見や要望など出来るように職員とのコミュニケーションが取れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホームでその人らしく生活を継続することができるように、ユニット合同で職員会議とカンファレンスの取り組みが行われている。職員間での検討が重ねながら、一人ひとりの身体状態や意向等に合わせた支援が行われている。医療面で協力医療機関との柔軟な関係が築かれていることもあり、ホームでの看取り支援が行われており、今年度も複数の方の看取り支援が行われている。その一方で、レクリエーションの取り組みも行われており、併設のデイサービスとの合同行事も行いながら、利用者の活動と楽しみにつなげている。運営推進会議は併設のデイサービスと連携して開催しており、会議には多くの家族の参加が得られている。家族との情報交換を深めたり、会議を通じて行なわれている講習会等を通じて、家族にホームでの取り組みを知ってもらう機会につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロア入口に理念を掲げ、また生活記録ファイルにも掲載しているので常に職員が確認できるようにしている	基本理念の他にも、ホーム名から考えた文言も考えておりホームの理念と考えている。定期的なミーティング等を通じて、理念の内容を振り返る機会をつくっている。また、フロア毎に理念の掲示も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加し、小学校の運動会や敬老会自治体の体操教室に参加させてもらっている 地域の子育てサロンとの交流で訪所して頂いている	地域の清掃活動、運動会、敬老会等にホームからも参加しており、地域の方との交流の機会をつくっている。地域の子育て支援団体の方との交流も行われている。また、関連事業所を通じた相談等の対応も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方との交流もあり事業所や利用者様の理解を得ている、相談ごと等あれば積極的に乗っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回運営推進会議の終わりに家族様同士、職員との交流の機会を設けて意見交換や相談できる場を作っている	会議の際には併設のデイサービス職員も参加していることで、事業所全体に関する現状報告が行われている。会議には複数の家族の参加が得られており、会議を通じた講習会も行いながら交流の機会につながっている。	会議に地域の方の参加が難しい状況が続いている。複数の介護事業を運営している事業所でもあり、会議への参加が得られ、地域の方との交流の機会につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や施設のイベント等に声をかけさせていただいたり、町内の行事等に参加し交流を持つようになっている 区の災害訓練にも参加している	市担当部署とは、ホーム管理者の他にも併設事業所職員も通じながら情報交換等の機会をつくり、運営への反映につなげている。また、地域包括支援センターが行っている事業所にホームからも講師役等で参加しており、協力関係をつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に社内研修を行い、身体拘束の知識や意識を持ってもらい日々のケアに取り組んでもらっている	身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、やむを得ない際には、家族との話し合いや職員間での検討が行われている。各フロアに施錠を行なっておらず、利用者の見守りを重視した支援が行われている。また、研修会の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的研修(社内・社外)により虐待のない施設作りを意識している 管理者は常に職員とコミュニケーションを図り意見や相談をうけたり、利用者様の状態を見ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し勉強し資料等職員で共有できるようにしている 必要に応じて管理者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所される前にしっかりと家族様に説明や意見・質問等に答え納得して頂いた上で契約に至っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から職員と家族様とのコミュニケーションが取れており意見・要望が言いやすい環境が整っているのものでその場で意見や相談に乗ることが多い 反映に早く対応できていると思います 意見箱の設置もあります。	ホームの行事の際には家族の参加が得られており、交流の機会につながっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも施設長でもある法人代表者も対応可能な体制がつけられている。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスミーティングで、意見や提案の機会を設けている。 常に管理者は職員の近くにおり、すぐにコミュニケーションをとり個別でも相談できる環境も作っている	職員会議をユニット合同で開催しており、職員間で意見を交わしながら管理者から法人代表者へ報告され、ホーム運営への反映に取り組んでいる。管理者による職員面談の他にも、法人代表者との面談の機会もつけられており、職員の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場の様子を把握し、職員ひとり一人やりがいがある環境を作ってくださっている 一人一人とのコミュニケーションもしっかり取って頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内・社外研修を通じてキャリアアップ出来るように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修に参加したりした時に交流がある程度同地域の同業者との交流を増やしていけたらと思っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	バックグラウンドアセスメントを活用したり、事前に家族や本人の話を聞いてそれをまとめ職員で共有し安心して生活出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者だけでなく職員全員とコミュニケーションが取れるように、家族様が気軽に相談できる環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人のアセスメントとニーズから1つずつ順番に取り組み対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活に少しでも早く慣れて頂けるように、職員は気を配りながら交流できる環境を作りと配慮に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と職員で協力し合いながら利用者様を支えていく信頼関係を持っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	基本的にこれまで交流があった方の来所は拒まず歓迎し、家族様へも馴染みの環境に添えるように提案もしている	利用者により、入居前からの関係の方がホームに訪問したり、併設のデイサービスの利用を通じた交流の機会が得られている方もいる。また、家族の誕生日にホームから出かける方もあり、関係継続の取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士同じ作業が出来る利用者様同士で同じテーブルにしてみたり、時には席替えをして皆が関わりあえるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にお話しをする事でご本人の意向等が把握でき、その思い等を大切に望んだり役割が持てるように努めている	担当制も活用しながら毎月の利用者毎の便りの作成を行う等、利用者の把握に取り組んでいる。また、毎月のミーティングを通じたカンファレンスをユニット合同で実施することで、職員全員で利用者の意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドアセスメントや家族様のお話から情報等共有し過去の暮らしぶりを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活記録や申し送りの中で変化等あればすぐに連絡しあい状況の把握また情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスでの話し合いと事前にご家族様からの要望をお聞きした事を照らし合わせて計画に反映している	介護計画を6か月で見直しており、家族との面談も行いながら実施している。毎月のカンファレンスを通じたチェックを行い、3か月毎のモニタリングにつなげている。また、日常的にも計画の内容の要点を職員間で共有する取り組みが行われている。	ホームでは、利用者に合わせた「個別サービス計画確認表」を添付す等の工夫が行われているが、取り組みを継続し検討を深めながら、日常の記録への反映が充実することも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様一人ひとりの生活記録とは別で特記事項等あれば差し込みで情報をわかりやすく共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて出来る限りの対応やケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	学区の体操教室などに参加したり民間の地域資源都の関わりを持つ事で安全と安心を確保している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診と緊急時の対応により管理者のみではなく職員全員が医師とのコミュニケーションを図っている	協力医が日常的にホームに訪問していることもあり、医療面での柔軟な対応が可能な体制がつけられている。受診は家族による対応としつつ、必要に応じてホームでも対応している。また、協力医療機関の看護師による支援も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とも職員個々や家族も気軽に相談等できるような環境であるので連携がしっかりとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほぼ入院する病院は同じであるので施設側と病院との関係もある程度出来ているし、主治医が敏速に対応して頂けるので安心はしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員は研修により終末期の対応など学んでいる 医師から判断が出た時は速やかに家族へお話しをして今後のケアなど方針を決め計画作成し協力して支援している	ホームでの看取り支援にも柔軟に対応しており、協力医との連携を深めながら支援が行われている。身体状態等の段階に合わせた家族との話し合いを行い、意向等に合わせた支援に取り組んでいる。また、必要に応じた職員への指導等の取り組みも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルを作成してどの職員も対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の実施 夜間の火災の想定など訓練を行なっている 地区の災害訓練にも参加している	年2回の避難訓練の際には、併設のデイサービスとの合同の訓練も行われており、職員間の連携に取り組んでいる。運営推進会議を通じた訓練も実施しながら、出席者との情報交換が行われている。また、必要な備蓄品の確保も行われている。	ホームでは水害を想定した訓練の実施も行われている。火災、地震以外の災害対策の取り組みを知ってもらい、地域の方との連携を深める取り組みにつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりの人格や背景を把握し人生の大先輩であるとの意識を常に持ちプライドなど傷付けないように注意している	ホームの理念から、職員が利用者の人格を尊重し、日常の支援で自覚をもつような働きかけが行われている。利用者への対応に関しては、職員間で意識するように取り組んでおり、合わせて職員研修の取り組みも行いながら振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的に利用者様のペースを見守り支援している いくつかの提案の中から自己決定しやすい様にも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の生活スタイルやご本人の要望を優先に考えケアプランに反映している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様一人ひとりの好みの服装や格好を職員は把握している 容姿が乱れていればすぐに整容している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞いたり、野菜の下処理後片付けの手伝いをしてもらっている 食べやすい形状や量もきちんと把握し対応している	メニューについては利用者の嗜好や好みにも合わせて考えており、重度化の方に合わせた食事形態の提供も行われている。利用者も準備や片付け等、出来ることに参加した取り組みが行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下状態などに合わせて食事の形状など変えたり摂取しやすいように器なども工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	まずはご自身で歯磨きなどをしてもらい最後の仕上げを職員がチェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりのリズムやパターンを表にして共有し、トイレ誘導など失禁など失敗のない様に努めたりトイレの習慣を身に付けれる様に支援している	利用者毎に記録を残しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでおり、職員間での情報の共有につなげている。また、協力医との情報交換の他にも看護師や薬剤師とも排泄に関する情報交換が行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の形状に気を付けたり、体操や歩行運動により腸の働きが低下しないように考えている 必要に応じ便秘薬は使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	お好みのお湯の温度や浴槽に浸かる時間など利用者様に伺いながら支援している 基本的には週2だが、失禁時や希望時はその都度対応している	ホームでは、週2回の入浴となっているが、希望には対応するように取り組んでいる。重度の方に合わせて職員複数での介助を行ったり、季節に合わせて入浴の取り組みも行われている。また、就寝前に足浴を行う取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に利用者様が休みたい時に休んでもらっている 部屋の温度調整などは聞きながら行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誰がどんな薬を飲んでいるかなど職員が見てわかる一覧を作成している 薬剤師とも薬の相談も行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	バックグラウンドアセスメントやセンター方式の一部を使用しまとめ、利用者様の支援に役立てている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常では気候が良い時は散歩に出かけたり、計画を立てて遠方へ出かけるなどしている 散歩を毎日の日課にされている方もいるので個々に支援できるように努めている	利用者の状況やその日の天候等にも合わせながら、近隣の散歩や買い物等を通じた個別の外出支援が行われている。また、季節等に合わせた外出行事を実施しており、花見や市内の公共施設への遠足や地域の行事への参加等の外出が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の買物と一緒に出かけたり、お散歩の途中でお店に寄って買物や喫茶店に行く事もある ご自身で使う日用品(消耗品)を買いに行く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持っている利用者様が好きな時に電話を掛けてもらっている お手紙も便せんやはがきもいつでも掛けるように用意してある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせて装飾したり、レクリエーションで作成したものを飾ったり、写真を貼っている	リビングはゆったりとした空間が確保されており、建物の2階と3階にあることで採光にも優れていることで、開放感のある雰囲気となっている。リビングの壁には季節に合わせた飾り付けが行われており、季節感にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席では気の合う利用者様と食事をしたりソファでゆっくりしたい時は自由に使っていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みの家具など自由に持ってきていただいている ご本人様のお好きな装飾や空間作りを家族様やご本人と一緒にこなしている	居室に収納スペースが確保されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。居室には、家族との写真や趣味の花等が飾られている方やシンプルな雰囲気の方の居室もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	役割や生きがいを感じていただけるように空間作りや雰囲気作りに心掛けている		